

横浜市戸塚区民文化センター さくらプラザ 情報誌

SAKURA

Since 2013



Vol.22
3・4月号

私は、「わたし」に会いにゆく。さくらプラザで、逢いましょう。



市原 愛

©Takayuki Yoshida



NAOTO

春色のあなた、新しい始まりー

== INDEX ==

Pick Up Artist

NAOTO
市原 愛
ロバの音楽座

さくらプラザ館長の『東へ西へ』

さくらプラザ自主事業レポート

こどものための芸術の学校
ピアノグランプリ 他

連載

戸塚出身!ソプラノ歌手 市原 愛の「歌の翼に」
出張! THE LEAPS の行ったるチャン!
さくらプラザ特待生による コンサート・レビュー
男は背中で物語る 戸塚見返親仁
出張! 戸塚新聞



ヴァイオリニスト／作編曲家

NAOTO

ジャンルをスタイリッシュに跨ぎ、
ポップスを表現する
唯一無二のヴァイオリニスト

わたし(桑田)がNAOTOさんを知ったのは、とあるロックバンドのライブ。鮮やかなライトを浴びながら、ヴォーカルやギター、ドラムなどと並んで演奏する彼に、ヴァイオリン=クラシックという認識しかなかったわたしは衝撃を受けました。その鮮烈な印象はどのようなルーツから生まれたのでしょうか？自らを“popper(ぽっぽあ)”と呼ぶNAOTOさんにお話を伺いました。

ヴァイオリンとの出会いは「あのかわいいカバンが欲しい！」

—まずは音楽、そしてヴァイオリンとの出会いを教えてください。

母は音楽大学を出た声楽家で、家でピアノ/教室を開いていたんですが、生徒数を増やすために音楽講師の資格を取得しようとしていたんです。母が勉強をしている間、保育所代わりにそこの音楽教室の3歳児クラスに入れられて。そこから音楽人生が始まりましたね。

ヴァイオリンに触れたきっかけは、母がヴァイオリン発表会に連れて行ってくれたこと。少し年上のお兄さんお姉さんたちが持っていたヴァイオリンケースを“かわいいカバンだなあ”と思って。僕にとってヴァイオリンケースはカバンで、実は楽器が入っていたというわけです。母はヴァイオリンが大変だとわかっていますから、やらせたくなかったようです。だけど僕は「あのカバンが欲しい！」と最後まで言い張って。ついに、祖母の「あんなん百貨店に3万円で売ってるやん。」という一言で買ってもらうことができました。そうしたら、毎日の辛い練習も一緒についてきましたね(笑)。

当然1位と思っていたコンクールでまさかの2位

—高校から音楽科に進まれたということですが、いつ頃からプロになろうと思っていましたか？

小学3~4年生の時には間違いなくプロになると思っていましたね。大きな音楽コンクールに出ても、ちゃんと結果を残すことができたし、先生たちも僕がプロを目指せるように指導をしてくださっているということがわかったから、このままいけばプロになれるだろうと思っていました。

ただ、高校は普通科高校に行くつもりでした。当時就いていた先生に「高校の友だちは一生の友だち。違う業界の人たちが一緒にいられるのは高校生活が最後だから、高校は普通科に行くおきなさい。」と言われてまして。もともとだと思いき、普通科高校に行くつもりでした。そのつもりだったのですが、中学3年生の時に当然1位になるだろうと思っていたコンクールで2位になってしまったんです。自分では仕方ないなと思ったのですが、周りの反応がまだ子どもだった僕にはとてもキツくて。今の環境から抜け出したいと思って、困ったなあと考えていた時に、東京には学費がかからない国立の学校が1つだけあるということに気づいたんです。それが、東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校ですね。準備はしていなかったから、受験までの2ヶ月間これ以上弾いたことは人生でないくらい、毎日ヴァイオリンを弾きましたね。ここさえ踏ん張ればきっと受かると思っていたし、そうすれば高校3年間・大学4年間 僕には自由と幸せが待っていると思って頑張りました。



「音楽ってこんなに楽しかったんだ！」と気づいた高校時代

—そんな自由を求めて 地元大阪から上京した高校時代。音楽生活はいかがでしたか？

高校に入った瞬間に、隣りで弾いている人たちがとても上手くて！ レベルの高さにとても驚きました！「音楽って楽しいんだ。オーケストラってこんなに楽しかったんだ！」ということによりやく気づき、とても幸せでしたね。

それまでの僕にとっての音楽は、コンクールで誰かと戦うような“ひとりでのもの”だったんです。オーケストラや室内楽といった、誰かと一緒に演奏する楽しさをようやく高校に入って知りました。これからの日本の音楽を背負いたいと本気で思っているような、とても高いレベルを目指している人たちと一緒にできるってということが本当に楽しくて。音楽の授業だけは目を見開いて受けていました。代わりに普通の授業ははずと寝てました(笑)。

THE YELLOW MONKEYのライブで拍手を浴びる！

—その後藝大に進み、クラシックからポップスへの転換のきっかけを聞かせていただけますか？

大学に入ればはクラシックをやっていました。きっかけは学園祭ですね。その当時、葉加瀬太郎さんの「クライズラー&カンパニー」と落合徹也さんの「G-クレフ」という藝大生のバンドが一世を風靡して、紅白にも出ていたんです。そんな両バンドの盛り上がりもあって、「学園祭でコピーバンドをやる」と友人に誘われて。楽しそう!と思ってやり始めたら、できあがった音楽が全然かっこよくない。譜面通りに弾いているのにかっこよくならないんです。「これが違うジャンルをやるってことの難しさなのか」と気づいたんです。

ポップスってどういう原理なんだろう、ロックもわかっていないとダメかな、と勉強するところからまずは入っていきましたね。

一方で大学1年生の頃からスタジオミュージシャンの仕事を始め、アーティストのバックで弾くということもしていました。ある年のクリスマス、THE YELLOW MONKEYさんのライブに1曲だけ弦楽カルテットとして出演することになりました。僕は2ndヴァイオリンで、1stヴァイオリンが子どもの頃から可愛がってくださっていた先輩でした。

先輩がソロを弾こうとしたんですが、マイクトラブルで音がまったく出ていなくて！ そうしたら、チェロの先輩が「お前なにか弾け！」ってすぐ僕に合図して。それで咄嗟に僕がアドリブを弾いたら、観客から拍手がぶわっつと起こったんです！クラシックだと総合芸術だから、楽章間で拍手することは基本ないですよ。まだ(ヴォーカルの)吉井和哉さんが大サビを歌っているのにみんな拍手をしてくれて。「吉井さんがまだ歌っているのに？ 曲が終わったわけじゃないのに!？」って。ポップスはお客さんのその反応の早さも素晴らしいなと思いましたね。

その時からクラシックとポップス、僕はどちらがやりたいんだろうとよく考えるようになりましたね。クラシックはとても素晴らしい音楽だし、大好きです。完成度の高さも、どのジャンルよりも群を抜いて素晴らしい。だけどクラシックにはクラシックのスペシャリストがいるわけだから、その方がされている音楽を聴くほうがより良いと思ったんです。そして、僕は作曲したり、それを表現したりすることへの興味のほうが大きかったので、最終的にポップスを選びました。

音楽環境が1番近い榊原大さんとデュオ

—今公演はどのようなコンサートになりそうでしょうか？

元G-クレフのピアニスト 榊原大さんとデュオですね。榊原さんは高校・大学の先輩で、音楽についての育った環境が1番近いんです。たとえば大学の途中でポップスを始めたところや、ポップスというジャンルで仕事をし、作曲もする。実は高校の担任の先生も同じなんです！そういう意味で環境的にはほぼ同じだと僕は思っているので、とても近い存在なんです。とても仲良くさせてもらっています。もともとはふたりとも本気でクラシック奏者になろうしていたから、クラシックの息づかいや解釈をいちいち話さなくてもわかるんです。音のタイミングを合わせる時も、呼吸の速さとか、呼吸に入る前の肩の動きとか、ふたりの暗黙のルールがあるから他の方とのコンビネーションとは違う。榊原さんも僕も、ポップスの世界ではスロースターターだから、その僕たちが1番前の人を追い抜くためにはどういうことをやらなくてはいけないか、という考え方もたぶん同じです。ポップス専門のピアニストだったら、「クラシックを弾く時はこういうタイミングなんですよ」という説明をしなきゃいけないし、逆にクラシック専門の方とポップスを弾く時には、「ポップスはこういうタイム感で弾くんですよ」ということを言わなきゃいけない。でも榊原さんはどちらも言う必要がないんです。とてもコミュニケーションをとりやすいし、クラシック・ポップスどちらの完成度も非常に高い、素晴らしいピアニストです。

プログラムとしては、クラシック、お互いのオリジナル曲やスタンダードナンバーも弾こうと思っています。どの曲をとっても、きちんとしたものをお聴かせできると思いますので、安心して聴きにきてください！そして、ツッコミの僕に対して、榊原さんはボケの方です(笑)。スべるのを気にせずボケてくれるので、さすが先輩だなどいつも感謝しています(笑)。そんなトークもお楽しみにしててください。

—ありがとうございました！

(取材・構成：桑田 春花)

NAOTOさんを紐解く、その他のキーワード

洋服

全然おしゃれじゃないです！ スタイリストさんに「これがおしゃれなものですよ」と言われたものをホイホイ着ます。腕が動かしづらいシャツの時には袖を切ることもあって、その日はジャケットを脱げません(笑)。

金髪

散髪屋さんが失敗して二十歳から金髪です。最初は嫌だったけど、仕事で「あの金髪の子」って言われるようになり、これはやめられないなと(笑)。

カレー

年間300食くらい食べています。でもカレーで仕事されている方は800食くらいなので……。カレー界的には下の下ですからね！※NAOTOさんはカレーのソムリエとも言える「カレーマイスター」の資格があり、日本スープカレー協会広報宣伝担当理事に就任されています。

スポーツ

スポーツ全般大好きです。ゴルフもするし、野球は観るのもするのも好きです。応援している日本ハムが優勝したので、(ペナントレースが始まる)3月25日まで優越感に浸れます(笑)。



NAOTO (ヴァイオリニスト／作編曲家)

東京藝術大学附属音楽高校、同大学音楽学部器楽科卒業。2005年、EPICレコードよりメジャーデビュー。クラシックからポップスまでジャンルレスな高い音楽センスと、ブリッジをしながらの演奏など、華麗なパフォーマンスでインストゥルメンタルの新人としては異例の人気を博す。ジャンルをスタイリッシュに跨ぎ、ポップスを表現する唯一無二のヴァイオリニストとして、ますます進化を続けるNAOTOにさらなる注目が集まっている。

■オフィシャルホームページ：<http://www.naoto-poper.com>

さくらプラザホームページで、NAOTOさんメッセージ動画公開中！

NAOTO アコースティック デュオ・コンサート
2017年5月27日(土)14:00開演(13:30開場)

*詳細は裏表紙をご覧ください。





ソプラノ歌手
いちばら あい
市原 愛

さくらプラザで美しい春の曲を！
市原さんが再び「故郷」に帰ってきます。

戸塚出身のソプラノ歌手 市原愛さん。さくらプラザでは 2015 年 6 月に「市原 愛 ソプラノ・リサイタル～透明な歌声に包まれる至福のひと時～」公演を開催し、その澄んだ歌声に多くのお客様が魅了されました。「もう一度戸塚で市原さんの歌声を聴きたい」そんな声にお応えし、この春 ふたたびさくらプラザに登場されます！初めてのアルバムや今公演の聴きどころなど お話を伺いました。

—まずは、前公演の感想や思い出をお聞かせください。

ステージから見た客席には、私の中学・高校時代の同級生をはじめ、懐かしの顔触れがズラリ！故郷に帰ってきたんだなぁと感じさせられるような、とても温かい雰囲気になっていて記憶しています。また、さくらプラザのスタッフの方々が大変熱心で、リサイタルを盛り上げる為に色々工夫して宣伝をしてくださり、地元を迎えていただける喜びと有り難さを強く感じました。

—その後、2015 年秋にご自身初めてのアルバム「歌の翼に」をリリースされましたが、どのようなアルバムですか？

“鳥”、“翼”をテーマとし、選曲に随分と長い時間をかけて制作したアルバムです。レコーディングは 3 日間、ホールに缶詰めになって行いましたが、何度も何度も繰り返し録ってみるものの、結局は「一番最初のテイクが良い！」なんてことが意外と多かったです（笑）。視覚的要素のない、アルバムという世界の場合、想いを込めすぎたり、慎重に、繊細になりすぎるのは、あまり良い効果を生まないようです。

—今公演の聴きどころ・魅力を教えてください。

私の母校である北鎌倉女子学園のコーラス部をゲストに迎えるのですが、私自身とても嬉しく、楽しみに思っています。前半はコーラス部と共に思いっきり「春」の歌を！ 後半はまずファーストアルバムから「翼」をテーマにした曲をお聞き



2015 年 6 月 公演写真



2017年4月29日(土・祝)市原 愛 ソプラノ・リサイタル～歌の翼に～ *詳細は裏表紙をご覧ください



古楽合奏団
ロバの音楽座

こころあたたまる「音と遊びの世界」を子どもたちに

子どもたちに寄り添い、とても温かい気持ちになる演奏を届けている「ロバの音楽座」。子どもたちの興味をそそるたくさんの楽器たちとともに、2017 年 5 月 3 日(水・祝)さくらプラザに初登場です！そんな「ロバの音楽座」のリーダー 松本 雅隆さんから結成のきっかけなどお話を伺いました。



—結成のきっかけを教えてください。

1973 年から中世・ルネサンスの音楽を演奏する古楽器アンサンブル「カテリーナ古楽合奏団」として活動を続けています。この合奏団の中心メンバーにより 1982 年にロバの音楽座は結成しました。カテリーナ古楽合奏団の演奏会に来てくれた子どもたちが、聴いたこともない西洋の古楽器の音色にとっても興味を示し、集中して耳を傾けている姿にたびたび出会いました。私たちが演奏する木の枝のような笛や、動物の皮が貼られた素焼きの太鼓、どこか東洋と西洋が混ざったような音色……なつかしい音にじっと耳をすましていました。その様子を見て「これは現代の子どもたちが求めている音なのでは？」と直感したのがきっかけです。

—なぜ「ロバ」という名前が入っているのですか？

40 年位前、旅をするロバ君を歌ったある歌に出会いました。(中世南フランスの吟遊詩人の歌)「1 日の仕事を終えたロバ君は眠りについて夢を見る。大好物の大麦、干し草を食べる夢。ロバ君はうれしくて思わず歌を歌う。」最後にこのような歌があります。「へたな歌声が夜空にひびき、すべての人を優しくつつむ。」この一節に衝撃を得たのです。1000 年前のメッセージ「音楽はこころだよ」「こころの中に豊かな森を」と。私たちがロバ君のような大きな耳で耳をすまし、子どもたちに音楽の夢を届けるべく、(ロバ君のように) ゆっくりゆっくりと歩くことにしようと思い、名付けました。



子どものためのコンサート ロバの音楽座「森のオト」
2017年5月3日(水・祝)14:30開演(14:00開場)
会場：さくらプラザ・ホール
料金：一般 1,700円 / こども 1,300円(中学生以下)
(2歳以下でひざ上鑑賞の場合は無料)

さくらプラザ電話予約
3/15(水)14:00～ *窓口販売は翌日9:00から

—では、メンバーを動物に例えると？

- ◇松本 雅隆→「赤色のロバ」(夕焼けに照らされたロバ君に会いたから)
 - ◇上野 哲生→「茶色のタヌキ」(よく茶色のセーターを着てラーメンを食べているから)
 - ◇富田 りぐま→「青色のリス」(たまに青色の靴をはいてスキップをしているから)
 - ◇大宮 まふみ→「黄色のシロクマ」(うす黄色のコートがよく似合うから)
 - ◇長井 和明→「ピンクのゴリラ」(大きくてユーモラスなキャラクターだから)
- ※動物は単なる思いつきです。

—今回の公演の魅力を教えてください。

舞台上並ぶおとぎの国から飛び出したような、30 種類以上のむかしむかしの楽器。作りたくなるような空想楽器。そして歌や仮面劇。素朴で温もりのあるロバサウンドは、大人も子どもも絵本の世界に入り込んだようなステキな気持ちになるでしょう。森の音のシャワーを身体中浴びると、温かい夢がやって来るのです。

—最後に、戸塚の子どもたちにメッセージをお願いします。

ロバの音楽座「森のオト」は音楽が大好きになる音楽会です。たくさんのご来場を心よりお待ちしております。

(取材・構成：石村 里美)

ロバの音楽座

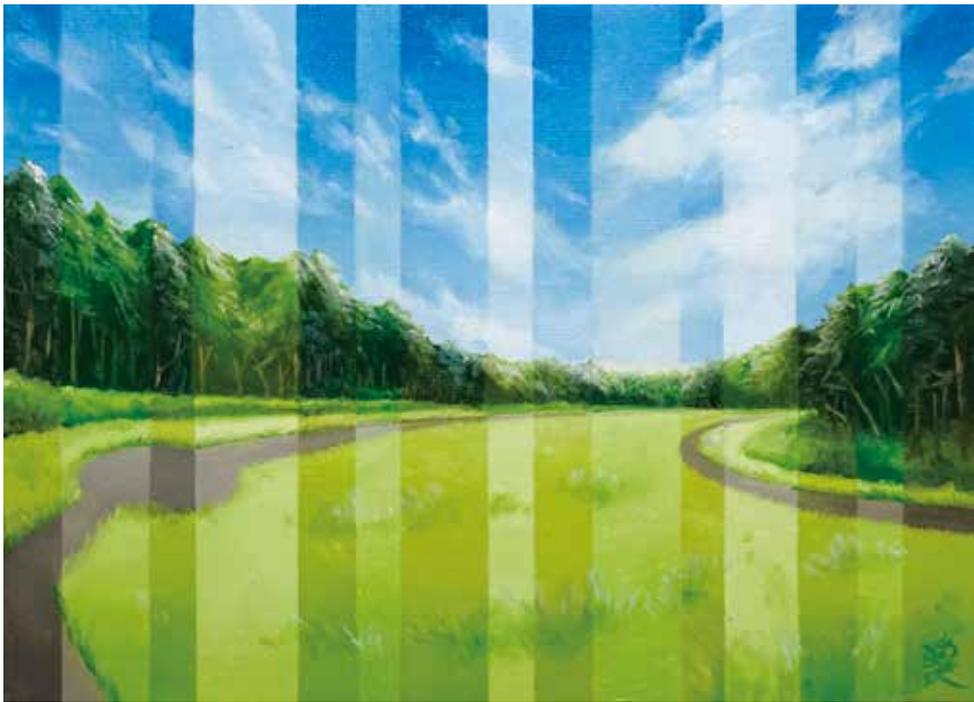
1973年「カテリーナ古楽合奏団」として活動し、1982年子どもたちに音楽の夢を運ぶべく「ロバの音楽座」結成。ロバの音楽座は古楽器や空想楽器などにより、ファンタジックな音と遊びの世界を繰り広げている。2004年よりNHK教育ショートアニメ「パンツぱんくろう」「からだであそぼ」などの音楽を担当。2006年 ジブリ作品「ゲド戦記」の音楽に参加する。2016年「森のオト」が厚生労働省社会保障審議会特別推薦文化財作品に選ばれる。2015年よりNHK Eテレ「いないいないばあ」のうーたん人形劇場の音楽を担当。

【同日開催】空想楽器「ブンバカババ」を作ろう！
12:40～13:20
会場：さくらプラザ・リハーサル室
対象：3歳以上 ※保護者の方も入室いただけます。
料金：こども 500円(ホールチケットの購入必須)
申込：左記、ホールチケット発売日と同日
作った楽器でそのあとのコンサートに参加できるかも？!

さいごプラザ 館長の『東へ西へ』

第6回 LAST WILL AND TESTAMENT 「モトセノ・ノチノ・キミへ〜百年後の『私』へ〜」

文・写真 田中啓介／画 大野 愛



俣野別邸庭園は、横浜市が整備した広大な敷地を持つ風致公園である。「風致」とは、自然の景観の持つ味わい、趣き、美しさという意味。平成25年から公開されている外苑に続き、平成29年4月から内苑も一般公開される。

内苑には、今から78年前、1939年（昭和14年）に建てられた住友家の別邸がある。昭和初期のモダニズムを反映した和洋折衷の大きな西洋館だ。設計は佐藤秀三（ひでぞう）、自身の工務店が施工している。（公開前のため取材できなかったので、内苑の紹介は次号で！）

今回は、この別邸が出来た時代を起点として「文化」や「芸術」を巡る旅だ。この場所は、そのタイムトラベルへの出発点に過ぎない。『時をかける少女』のラベンダーの香りのようなスイッチ……

さて、1939年とは、どんな年だったか。

9月1日にナチスドイツがポーランドに侵攻、3日にはイギリス・フランスがドイツに宣戦布告し第2次世界大戦が勃発している。また、後に戦犯として処刑されるドイツのアドルフ・アイヒマンという役人が、国家保安部ID局B部4課（俗にいうゲシュタポのユダヤ人課）課長というユダヤ人を絶滅収容所に送る移送の責任者に任命された年でもある。アイヒマンが、その職務を全うするため効率的に大量のユダヤ人を輸送できるよう励んだ結果、数百万人が虐殺されることになったと言われている。（後にアイヒマンテストと呼ばれる実験で、彼が冷酷な人殺しではなく、単に職務に忠実で真面目な役人であり、誰もが「アイヒマン」になりえることが証明されている。故に、アイヒマンはいたらとこに現出する。）

そして、昭和14年。

それは明治の文明開化から大正ロマン、昭和モダンへと受け継がれてきた日本のモダニズムが終焉を告げる年でもあっただろう。文明開化によって輸入され醸成されていった日本独自のモダニズム・近代文化が音を立てて崩れていく。あるいは、音もなく。言葉も声も封じられたまま。（そういう時代の幕開けの年に、奇しくもこの昭和モダニズム建築を代表する邸宅は建てられた）

ピアニストで詩人の高橋悠治は、あるトークの中で「中心がなくてフィジカルなものから立ち上がってくる。」という表現をしている。それが何を指すのか前後の文脈から推定するのは難しいが、この二人の言葉を使って表現すると、

『娯楽』は「論理的」に「フィジカルなものから立ち上がり」中心がなく、『文化』はたとえ「論理的」に「フィジカルなものから立ち上がり」ると「中心がある」

と言い換えられるのではないだろうか？
その中心は言うまでもなく、社会の中ではなく、一人一人の『私』＝「自分」「自身」の中にしかない。
で、そういう文脈から導くと私の仕事はこうなる。

「芸術振興は、人間の内部(中心)で行われる唯一の公共事業である。」

だから、目には見えないし、その効果を取り出して計量したり数値化したり客観的に評価することは出来ない。計量され得るものは、本質とは別の副次的な何か。産業や経済、医療や福祉や教育に効果があるとするならば、それは「副次的な何か」か、ブーレースが言った「娯楽」に属するものだろう。趣味とかレジャーとか、そういった楽しみ。

そういう楽しみよりも芸術の方が高尚だとか偉いとかいうつもりはない。どっちも大事、どっちが上でも下でもない。ただ、娯楽は生きていく上で必要だけれど、大概はお金で買えるし、お金で買えるほとんどのものの宿命として消費されることを免れないし、むしろ消費されていくことに意味がある。お金も物も感情も消費されて、消えていく。何も、残らない。残らないことに意義がある。娯楽などに関して言えば。だからこそ、消費されないものが必要になるのではないだろうか。

ノベル賞を受賞した大隅良典教授が、次のように言っている。

「私は『役に立つ』という言葉が社会をだめにしていてと思っている。「役に立つ」という言葉が、数年後に事業化できることと同義になっていることに問題がある。本当に役に立つことは10年後、あるいは100年後かもしれない。科学にすぐに結果を求めるのではなく、社会が将来を見据えて、科学を一つの『文化』として捉えて育てるべきだ。」

その文化にさえ『役に立つ』とかすぐに結果を求める風潮は、アイヒマンにとってはとても分かりやすく働き甲斐のある社会なのかもしれないが、本当に幸福な社会からはきっと遠ざかる。

例えば、「愛」「恋」でもいい。「役に立つ愛」や「数年後に事業化できる恋」なんて、もはや愛でも恋でもない。

文化や芸術は、愛や恋のようなものだ。形あるものに価値がある訳じゃない。目に見えない中心に価値があり、それこそが愛や恋の本質であり、文化や芸術の本質だ。（まあ、形にしないと伝わりにくいということも似ているかも知れない）

私が扱っている文化や芸術は、科学よりも長い時間を必要とする。すぐに結果なんて出ないし、商品化も事業化もできない。原子爆弾や原発の基礎研究には役立つかもしれないけれど、その影響は放射性廃棄物の隔離保管期間よりも長い。（と信じたい）

少なくとも、それは何年かで消えてなくなったり、無価値になるものではない。流行語大賞に選ばれることはないけれど、100年経っても200年経っても決して消えることはない。そういうものが残ってきたのだし、そういうものを次の世代に残していかなければならない。

だから、消費とは一線を画していかなければならないと思う。消費や市場原理に絡め捕られ飲み込まれてはいけないと思う、この仕事だけは。

そして、この仕事は「いま」「ここ」にいる市民一人一人の『私』に対して責任があるだけでなく、100年以上先までの「いま」「ここ」の『私』にもコミットしていかなくてはならない。そこにいる『私』の人数を考えると、現在よりも未来の方が圧倒的に多い。言うまでもなく。

「娯楽と文化には大きな違いがあります。娯楽は極めて論理的で通俗的です。社会はエンターテイナーを求めています、それは通俗のレベルです。創造するにはもう一つ上のレベルに行かなければなりません。重要なのは、自分をいかに表現するかということです。（中略）ゴールとは、自身を表現できた時に初めて到達するものです。」



だから、現在の「いま」「ここ」の『私』に応じていく以上に、未来の「いま」「ここ」の『私』に応じていく責任は重い。

故にこの仕事は、想像力と信念によって100年単位の時空を羽ばたく翼が必要だ。人はその翼を「イマジネーション<想像力・創造力>」と呼び、またある人は「フィロソフィー<哲学>」と言う。

ももとのち

2117年のキミに、
このフィロソフィーは届いていますか？

大野 愛 Megumi Ohno／画家

横浜を拠点に活動。シマシマ油彩画をメインに、日本画の制作、音楽とコラボレーションしたライブペイントも手がける。シマシマには心の揺らぎ、人々の価値観の違いを込めている。

【個展】「また来む秋は」ミーツギャラリー/銀座（2016）、「星の手向の」JazzSpot J/ 新宿（2016）、「おのがみる」Gallery fu/ 石川町（2015）【グループ展】「アポジキックvol.3展」みつみ画廊/関内（2016）、「レディ画家展」FutureDesignGallery Uluru/ 馬車道（2016）、「日本・スイス国交樹立150周年記念展」在スイス日本国大使館/スイス・ベルン（2014）【ライブペイント】「岸田恵士 SunBurst!!!」barMugen/ 銀座（2016）、「増尾好秋 from NY Trio」JazzSpot J/ 新宿（2016）

戸塚出身！
ソプラノ歌手・市原愛の連載コラム

歌の翼に

Vol. 6 最終回

高校3年生で全日本学生音楽コンクールに優勝したことは、想像していたよりも遥かに大きな反響をもたらしました。正直なところ、たまたまこの年に優勝出来たことがラッキーだった……という感じ……！？

まず、コンクールの主催が毎日新聞社だったこともあり、同社主催・春の選抜高等学校野球大会開会式で、「君が代」を歌ってほしいという依頼がありました。

(私が初めてのモデルとなり、その後は毎年コンクールの覇者が独唱を務めています。)

その当時、世の中ではちょっとした「君が代論争」が起きていたもので、図らずも私の歌唱は色々な方面から注目をあびることとなってしまいました。新聞、雑誌、テレビの取材も随分沢山受けた様に思います。まさか担任の先生がお洒落をして、フジテレビのニュース番組の取材を受けているとは思いませんでしたけれど……！！(笑)

そんな中でも1番のビックリしたことは、当時の総理大臣でいらした故・小淵恵三元首相から“ブッチホン”がかかってきたことでしょうか。

(↑きつと若い方は“ブッチホン”をご存知ないでしょうね！ 文字数の関係で、こちらでの説明は控えさせていただきますので、ご自身で検索してみてくださいね！(笑))

正確には、私に直接ご連絡があったのではなく、在籍していた北鎌倉女子学園にお電話を頂戴しました。今は時代と共に規則も変わったそうですが、私が学生だった時には携帯電話を持つのは校則で禁止されていました……！ 首相官邸からのお電話は、私の「君が代」生中継直後だったようで、私自身はもちろん甲子園球場にいて、対応が叶わなかった訳です。

また、甲子園での歌が印象に残ったということで、翌年には、天皇陛下御在位十年の記念式典において、世界的チェリストのヨーヨー・マさんと御前演奏するという大役を仰せつかりました。(この式典も全国に生中継！)

この他にも、鎌倉市から教育文化功労賞をいただいたり、様々な演奏機会を得ることになり、本当に、一気に歌手としての道が拓けたかのように思いました。

でも……周りの方々が、どんな時でも愛情を持って冷静にご助言下さっていたお陰で、いつまでも“学生”音楽コンクールの恩恵にしがみ付いてはられない！！

という思いが私の胸には常にあり、一大決心をして、コンクール優勝から4年後、ドイツ留学へと踏み切ったのです。

ここまで、私が戸塚で過ごした時期のことなどを中心に書いてまいりましたが、実は今回……いよいよこのコラムも最終回を迎えました！

私のツタナイ文章、そして私の思い出にお付き合い下さった皆さまに、心より御礼申し上げます。ひとりでも多くの方にクラシック音楽を、そして声楽を、より身近

に感じて頂けたら、これほど幸せなことはありません。是非演奏会にもお気軽に足をお運び下さいね！
まずは4月29日(土)さくらプラザ・ホールでのリサイタルで皆さまにお目にかかれそうですように……！！

市原 愛

※留学後のお話は「情報誌SAKURAVol.10」(2015年3月発行)に掲載しています。(さくらプラザのホームページからもご覧いただけます。)

市原 愛 Ai Ichihara

東京藝術大学を経て、ミュンヘン国立音楽大学大学院に学び、その後ミュンヘンのプリンツレグンデン劇場、パイロイトの辺境伯歌劇場、バーデン州立歌劇場、アウグスブルクのゲッギンゲン・クアハウス劇場、アウグスブルク歌劇場(専属ソロ歌手)、ハンブルガー・カメラータ、ミュンヘン放送管弦楽団に客演。国内では、読売日響、都響等との共演やリサイタルなどで活躍。2013年12月のトリノ 王立歌劇場日本公演ではヴェルディ「仮面舞踏会」でオスカル役に、2015年2月～4月には錦織健プロデュース・オペラVol.6「後宮からの逃走(モーツァルト)」の全国ツアーでブロンデ役に起用され、その歌唱力と演技で聴衆を魅了した。2015年10月にファーストアルバム「歌の翼に」(オクタヴィアレコード)をリリース。2018年2月にはバーヴォ・ヤルヴィ指揮NHK交響楽団定期公演に出演の予定。

■オフィシャル・ホームページ <http://www.aiichihara.com/>



©Akira Muto

今号の1枚



母校の北鎌倉女子学園のオリジナル・セーラー服折紙！！
娘のリカちゃん人形にピッタリです(笑)



最終回



戸塚の街に行つたるチャンの取材に出かけると「連載知ってるよ〜」「あのお店でリープスのポスター見かけたよ！」など声をかけていただくことも♪
大好きな地元・戸塚で応援してもらえること、知ってもらえることの喜びをこの連載をとおして教えていただきました。

「横浜市戸塚区出身のバンドと言えば!？」＝「THE LEAPS」と一番最初に答えが出てくるのがリープスちゃんの謙虚にも大胆な野望……。

まだ足りないから……まだまだ足りないから……
(by THE LEAPSの『THE LEAPS』の歌詞より引用)



“気合と意識はとにかく高い”でおなじみの二人が、次号から紙面でさらなる活躍を見せます！
「THE LEAPSの新連載(タイトル未定)」もどうぞご期待下さいね☆
そして「出張! THE LEAPSの行つたるチャン」連載2年のご愛読ありがとうございました♪

THE LEAPS(ザ・リープス)

横浜市戸塚区出身。幼なじみ同士のGt&Vo.MAYOUとDr&Vo.NANA-Aからなる2ピースバンド。現在、春の全国ツアー中! ツアーファイナルは3月25日(土)に渋谷CLUB CRAWLIにて。

■オフィシャルホームページ <http://theleaps.net>

思えばTHE LEAPSも2017年2月で結成5周年……。この「情報誌SAKURA」で「出張! THE LEAPSの行つたるチャン」を連載して2年……。時が経つのは早いもの。なんとこの連載も今回で涙・ナミダの最終回です(号泣)

連載全14回の中で、色々な場所で色々な方々に会いました☆
ゴスペル教室でみんなで歌うことの楽しさを教えていただいたり……
戸塚区総合庁舎の屋上庭園で戸塚区の愛すべきマスコットキャラクター・ウナシーちゃんとプロモーションビデオを撮影したり!(その模様はYouTubeでも視聴できますヨ!)



とつかストリートライブにもHOTなロックンロール♪をお届けすべくたくさん出演しました。
さくらプラザ・ホールでも「ガールズミュージック大会」に出演し、広いホール・ステージに負けない力強い演奏を披露しました!
そして!この冊子「情報誌SAKURA」の表紙と巻頭インタビューを飾っちゃったり……(感動)



そして……次号よりTHE LEAPSの新連載がスタートします!!! (歓喜)
行つたるチャンで経験したことをさらにバージョンアップ!
THE LEAPSの二人があ〜んなことやこ〜んなこと♡にチャレンジしていきます。
内容はまだ言えないのですが、新連載に対する意気込みを自分たちで突撃インタビュー!!! (笑)

「チャレンジしたいこと……トランペットを吹いてみたい! 縦列駐車のとくとか受けたり。」(MAYOU談)
「触れたことのないジャンルをやってみたい! ダンスとか、あとは絵画教室とか……?!」(NANA-A談)

「押忍! リープス魂!」(リープス談)



さくらプラザ
自主事業
レポート
Special!

戸塚区民文化センター さくらプラザ 2016年度のあゆみ

2015年4月

23日
前橋汀子プロデュースVol.5
無伴奏ヴァイオリン・リサイタル



5月

13日
若林 顕 ベートーヴェンピアノ・ソナタ 全32曲
第13回

6月

8日~10日
スタインウェイを弾いてみませんか?
~貴方だけのさくらの祭典~



23日
名曲サロン Vol.1
「雨の日に聴きたい
弦楽四重奏曲」

7月

15日
若林 顕 ベートーヴェンピアノ・ソナタ 全32曲
第14回

7月23日
さくらプラザ オープンデー2016
真夏の子ども探検隊 ~ようこそへんてこな森へ!
【同時開催】こぼんだウインドアンサンブル
「夏休みファミリーコンサート
~音楽でめぐるワクワク世界旅行~」



8月

18日
夏休み子ども食品サンプルワークショップ
「アツアツ!? たこやき& やきそばセット」

24日
名曲サロン Vol.2
「夏を彩る
美しきヴァイオリンの調べ」



27日
山崎千裕+ROUTE14band
~夜空のトランペット~



30日~31日
スタインウェイを弾いてみませんか?
~貴方だけのさくらの祭典~

9月

2日・7日
アートマネジメント講座Ⅳ
《文化芸術機関の仕事 基礎編》

10日
大萩康司CDリリース記念
特別レクチャーコンサート



22日
山形由美デビュー30周年
CD発売記念リサイタル
~パリの風にのって~ with 菅野 潤

23日
さくらプラザ × 横浜音祭り2016
シエトラ & フライシュマン デュオ・コンサート

30日
若林 顕 ベートーヴェン
ピアノ・ソナタ 全32曲 第15回
《アンコールVol.1》



10月

16日
前橋汀子プロデュースVol.6
弦楽四重奏を聴いてみませんか II

20日
名曲サロン Vol.3
「口笛で楽しむ 懐かしの日本のうた(秋&冬)」

30日
PIANO楽しみ方講座 聴き比べてみよう
~あの名曲をお洒落にアレンジ~

11月

4日
夢いっぱいシリーズ Vol.1
0歳児も夢中 親子ふれあい
歌あそび&パネルシアター



11月5日

秋のさくらプラザ寄席 第1回
庚寅長月の会・戸塚公演



11日
若林 顕 ベートーヴェンピアノ・ソナタ全32曲
第16回

さくらプラザクリスマスツリー点灯式2016
電子オルガンによるミニコンサート

12日
クリスマスワークショップforキッズ
かわいいキャンドルづくり

16日
アートマネジメント講座Ⅴ
シンポジウム《芸術の未来へ》

19日
名曲サロン Vol.4「ゴスペル・イン・クリスマス」

21日~22日
スタインウェイを弾いてみませんか?
~貴方だけのさくらの祭典~

12月

10日
鈴木理恵子 室内楽シリーズVol.5
ヴァイオリンとチェンバロの調べ
~王宮の響き~



21日
名曲サロン Vol.5
「ヴァイオリンとコントラバスで奏でる
上質なポップ・クラシック」

25日
クリスマス オルガンミニコンサート
▶レポートはP.14をご覧ください。

to be continued...

こどものための 芸術の学校

開校中



毎週月曜日 17:00~18:30
練習室4等

子どもたちよ、アートはあなたを自由に
する！ 現在、小学校4年生から中学生
までの子どもたち約15名が、“からだを
使ったパフォーマンス”をプロのアーティ
ストに学んでいます。

ピアノグランプリ 2017

2017年
1月28日(土)開催
本選会場:岩崎博物館(ゲーテ座記念)
揺さぶれ!魂のピアノ!
~人生の深淵から溢れだす音楽の力~

芸術の学校とは?

芸術活動に関心を持ち継続して学びたいと思った子どもたちが、専門的な教育を受けることが出来る年齢になるまでの間、自らの意志で、自主的に学ぶ機会を提供します。人の心を動かす表現力を育むのはもちろん、仲間とともに作り出す協調性やコミュニケーション力、客観性と他者への共感力を高めることによって、より豊かな人格を育み、将来の礎とすることを目的とします。

「パントマイムで日記」を堂々と表現しました♪



4月18日・25日
コハマ ショウゴ先生/パントマイム

「藤娘」「さくらさくら」を踊ってみました♪



5月9日・16日
泉 秀樹先生/日本舞踊

セリフを録音しアニメ映像と合わせてみました♪



5月23日・30日
竹田 えり先生/声優

最終的に小鼓をひとりずつ演奏しました♪



6月6日・13日
今井 尋也先生/小鼓&謡

カステネットを持ち、セビジャーナスを踊りました♪



6月20日・27日
望月 美奈子先生/フラメンコ

ボールなどを使ったパフォーマンスを練習しました♪



7月4日・11日・18日
こ〜すけ先生/ジャグリング

セリフもたくさん覚えて保護者の皆さんにも練習した成果を見ていただきました♪



【夏季特別版】
8月2日(火)、3日(水)、5日(金)
中野 成樹先生・洪 雄大先生/演劇

発声・滑舌練習から始め、2人1組で台本を読みました♪



9月5日・12日・19日・26日
成井 豊先生/演劇

割り箸やロープなどを使ったさまざまなマジックを覚えました♪



10月3日・17日・24日・31日
TSUKASA先生/マジック

食事や訪問時の作法から弓術まで、永く受け継がれてきた伝統文化を学びました♪



11月7日・14日・21日・28日
小笠原 清基先生、松本 和正先生、野口 瑞穂先生/小笠原流礼法

さくらプラザホールホワイエを舞台に見立て、ひとりずつ発表しました♪



12月5日・12・19日
福留 麻里先生/コンテンポラリーダンス

伝統芸能からダンスまでさまざまな芸術にふれ、ぐんぐんと自分のからだに吸収していく子どもたち。「こどものための芸術の学校」は、今後もアーティストとの出会いをサポートしていきます!

今回で第2回目を迎えた『ピアノグランプリ 2017』。横浜から世界へ、音楽の力を伝える新たな才能と出逢う30歳以上限定のピアノオーディションです。全11団体により構成された「ピアノグランプリ 2017 実行委員会」が地域文化の活性化及び世界の音楽文化への貢献を目的として開催しております。

受賞者決定!

37組の予選参加者の中から選出された15組のピアニストたちが本選で火花を散らしました。厳正なる審査の結果、下記の方々が栄えある賞を受賞されましたので、発表いたします。



受賞者の皆さま、おめでとうございます!

堀江 明子さん

♪演奏曲: リスト/B・A・C・Hの主題による幻想曲とフーガ

国立音楽大学大学院音楽研究科修士課程を首席で修了。クロイツァー賞受賞。卒業後、多くの演奏会に出演し、現在は学校教員をしながら、定期的にジョイントリサイタルやソロリサイタルを行っている。

【受賞者コメント】

緊張したのですが、『こう弾きたい』というのを出すことができ、そこを評価していただけたことがとても光栄です。



グランプリ

渡辺 まこみさん

♪演奏曲: E. グラナドス/
演奏会用アレグロ

フェリス女学院大学大学院音楽研究科修士課程修了。ピアノ講師をしながら、数多くの演奏会に出演。横浜山手西洋館ピアノ維持ボランティアとしても活動している。



優秀賞

【受賞者コメント】

今日の賞を励みにしてまたさらに頑張りたいと思います。

服部 貴美子さん

♪演奏曲: フォーレ/
ノクターン第6番 変二長調
Op.63

桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻卒業。イタリア、ドイツ、ウクライナなど、国外の講習会に多数参加し研鑽を積む。ピアノ講師をしながら、ピアノリサイタルの開催や、演奏会出演も積極的に行う。



優秀賞

【受賞者コメント】

ピアノグランプリに向けて勉強出来た時間はとても貴重でした。賞を頂けたことはとても嬉しく、これからもまた頑張っていこうと思えました。ありがとうございます。



速報!

ピアノグランプリ受賞者3名の 記念演奏会を開催します!

2017年10月9日(月・祝)14:00開演

※公演の詳細は7月頃公開予定です。
※日程は変更になることもございます。

◆審査員

大萩 康司さん(ギタリスト)、加藤 昌則さん(作曲家/ピアニスト)、齋藤 圭土さん(プギ・ウギ&ブルースピアニスト/コンポーザー)、平野 公崇さん(サクソフォニスト)、山本 貴志さん(ピアニスト)

◆ピアノグランプリ 2017 実行委員会

岩崎博物館(ゲーテ座記念)/青葉区民文化センター フィリアホール/
旭区民文化センター サンハート/磯子区民文化センター 杉田劇場/
泉区民文化センター テアトルフォンテ/栄区民文化センター リリス/
鶴見区民文化センター サルビアホール/株式会社馬車道ピアノサロン/
緑区民文化センター みどりアートパーク/株式会社ヤマミュージック
リテイリング 横浜店/戸塚区民文化センター さくらプラザ



隔月、金曜夜8時、ベートーヴェンのピアノの調べに酔いしれる。

若林 顕セルフプロデュース
ベートーヴェンピアノ・ソナタ 全32曲

アンコール Vol.2
Vol.18 3/17(金)
20:00開演
全席指定 前売 2,000円
当日 1,500円
学生 1,000円



3年目を迎えた「ベートーヴェンピアノ・ソナタ全32曲」シリーズの中で、好評を博した曲を再び演奏します。

ラストシーズン

各公演ともに全席指定
前売 2,000円/当日 1,500円
学生 1,000円
シーズンシート(3公演セット券) 4,000円
※前売券以外はさくらプラザのみでの販売となります。



Vol.19 5/12(金)
Vol.20 7/21(金)
Vol.21 9/29(金)
各回20:00開演

チケット さくらプラザ電話予約
シーズンシート 3/12(日)14:00~
各公演単独券 3/13(月)14:00~
*窓口販売は翌日9:00から
*3/14(火)は休館日となっておりますので
ご注意ください。

JAZZ NIGHT with Grace Mahya & 渡辺 裕之

Grace Mahya(Vo/Pf)、渡辺 裕之(Dr)、楠井 五月(B)

3/24(金) 19:00
全席指定 一般 3,000円/ペアチケット 5,000円



市原 愛ソプラノ・リサイタル
～歌の翼に～

市原 愛(Sop)、丸山 滋(Pf)
[ゲスト] 北鎌倉女子学園コーラス部

4/29(土・祝) 14:00
全席指定 一般 3,000円
ペアチケット 5,000円



子どものためのコンサート
ロバの音楽座『森のオト』

5/3(水・祝) 14:30
全席指定 一般 1,700円
子ども 1,300円(中学生以下)
【同日開催】空想楽器「ブンバカバツ」を作ろう!
12:40~13:20 ※詳細はP.5をご覧ください。



チケット さくらプラザ電話予約
3/15(水)14:00~ *窓口販売は翌日9:00から

NAOTO アコースティック デュオ・コンサート

NAOTO(Vn)、榎原 大(Pf)

5/27(土) 14:00
全席指定 一般 4,000円
ペアチケット 7,500円
横浜市民 3,500円
横浜市民ペアチケット 6,500円
EX席(2F見切れ席) 2,000円



名曲サロン Vol.7 「チェロが奏でる春の訪れ」

さくらプラザ サポートアーティスト 増山 頌子(Vc)
秋元 孝介(Pf)

4/20(木) [第1回] 11:30/[第2回] 14:30
全席自由 500円
会場:さくらプラザ リハーサル室



名曲サロン Vol.8 「フェリス・フラウエンコーア」
～山手の丘から歌の花束～

フェリス・フラウエンコーア
(フェリス女学院大学のミュージズたちによる声楽アンサンブル)

6/11(日)14:00 会場:さくらプラザ ホール
全席指定 一般 1,500円/学生 1,000円



チケット さくらプラザ電話予約 3/18(土)14:00~
*窓口販売は翌日9:00から

新たな出会いが生まれる3日間!

さくらプラザアートバザール 2017

ギャラリー:3/3(金)~3/5(日)10:00~17:00(最終日16:00まで)
ホール:3/5(日)14:00~16:00 他



とつかストリートライブ 春フェス2017

とつかソングコンテスト

3/11(土)13:00~17:00 予定



掲載された方には、お好きなさくらプラザ主催公演
チケット*をプレゼント!

*ご要望に沿えない場合もございます。あらかじめご了承ください。

●氏名 ●掲載用ペンネーム ●ご住所 ●電話番号 を必ず記載の上、郵送もしくはメールにてお送りください。

※ご記入いただいた個人情報は、当コーナーの目的以外には使用いたしません。※200文字程度におまとめください。

※誌面の都合上、原稿を一部修正させていただく場合がございます。

編集後記 今号の表紙キャッチコピーは、「春色のあなた、新しい始まり」。何かを始めたい春に、さくらプラザで新しい出会いがありますよう、願いを込めて付けました! (桑田)

戸塚区民文化センター さくらプラザ

TEL: 045-866-2501 FAX: 045-866-2502

〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町16-17戸塚区総合庁舎 4F

http://www.totsuka.hall-info.jp

event@totsuka.hall-info.jp



Vol.22
3・4月号